

## グローバルリスク

世界経済フォーラム（WEF）は、スイスのダボスで年次総会を開催し、グローバルリスク調査報告書2020年版を公表しました。



グローバルリスクって何??

グローバル・リスクとは、今後 10 年間に於いて、発生した場合に複数の国や産業に多大な悪影響を及ぼす可能性のある、不確実な事象または状況のことを言います。  
経済界のみならず、各国政府、国際機関らの長期戦略策定にも大きな影響を与えています。



## 2020年版 発生可能性 **大** の上位 **5** リスク

- ①異常気象（洪水・暴風など）
- ②気候変動の緩和・適応の失敗
- ③大規模な自然災害（地震・津波・火山爆発・地磁気嵐）
- ④大規模な生物多様性の喪失と生態系の崩壊
- ⑤人為的な環境損害・災害

上記の通り、世界の政財界のリーダーら750人以上が回答した「今後、起き得る長期リスク」の上位5項目は、すべて環境関連となっています。  
政治・経済両面で気候リスクや環境リスクを改めて認識せざるを得ない状況になっていることが明瞭になりました。  
思い通りにはいかない自然。突如として自然の驚異は降りかかってきます。  
地球にやさしい活動、環境にやさしい活動を続けながらも、リスクへの備え、知識の蓄え、新しいシステムの整備等を常に考えておくべきなのかもしれません。

## リスクに備えよう！ 新型コロナウイルス感染症 対策商品！！



対面カーテン（ステンレスタイプ）



【飛沫感染防止シート】

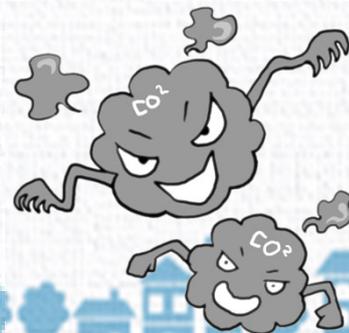


WEBビデオ会議用 バックボード



ケイジパックではこのような商品を取り扱っています！





環境問題への関心が高まる一方で、実際には何に取り組むべきか悩まれている方は多いのではないのでしょうか。今回は、その指針となるような3つの国際的な取り組みを紹介します。

## 3つの国際的な取り組み

01

### 化石賞受賞

2019年に開かれた気候変動枠組条約第25回締約国会議（COP25）の内容により、日本は2度目の化石賞を受賞することとなりました。授賞理由として挙げられたのは、日本の石炭火力発電の状況です。

02

### 日本のエネルギー事情

日本が排出している温室効果ガスの約9割はエネルギー起源のCO<sub>2</sub>が占めています。そのため温暖化対策を進めるうえで重要になってくるのが、エネルギー転換・脱炭素化です。

しかし、日本は、CO<sub>2</sub>を排出する石炭火力発電所の国内での新規建設や新興国への石炭火力発電の導入支援を進めています。他国からは、世界全体で脱炭素社会を目指している中、日本は後ろ向きであると批判を受けています。

03

### 企業活動から脱炭素化へ

では、脱炭素社会に向けて具体的にどのように取り組んでいけばよいのでしょうか。

企業活動から脱炭素社会を目指そうとする国際的な取り組みがあります。

国際環境NGOのThe Climate Groupが行っている「RE100」「EP100」「EV100」という活動です。

- RE100（100% Renewable Electricity）

企業が遅くとも2050年までに事業で用いる電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目指す取り組みです。日本では、企業だけでなく環境省も公的機関として世界で初めてこの活動に参画し、率先的に取り組まれています。

- EP100（100% Energy Productivity）

事業のエネルギー効率を倍増させる取り組みです。省エネ効率の50%改善等、消費エネルギー単位ごとの経済生産性2倍を目標とします。

- EV100（100% Electric Vehicles）

2030年までに事業活動で使う車両を100%ゼロエミッションにする取り組みです。

ここで使われるゼロエミッションとは、環境に負荷を与える廃棄物を排出しない車両のことを指します。



これらの3つの「100」をキーワードに企業活動を行うと、環境への対策として大きな社会貢献となります。日本では、日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP）が窓口になっています。取り組みに参加はしなくても、社会的責任として環境問題対策の参考にされてみてはいかがでしょうか。